

2023年度日中青年会議 事業報告書・収支報告

2023年7月28日～8月3日

2023年度日中青年会議運営委員会



**“Peace cannot be kept by force, it can only be achieved by
understanding”**

~Albert Einstein

I. 概要

<概要>

事業名: 2023年度日中青年会議

事業開催期間: 2023年7月28日～2023年8月3日

事業開催国: 中華人民共和国 香港特別行政区

事業実施場所: ユナイテッド・ワールド・カレッジ 香港校 / Li Po Chun United World College of Hong Kong

事業主催: 日中青年会議委員会

監督者: Adrian Kwong (Li Po Chun United World College of Hong Kong Administrative Officer)

<参加者>

日中青年会議委員会オーガナイザー: 26名

日本人参加者: 12名

中国人参加者(香港・台湾を含まない): 13名

香港出身の参加者: 7名

台湾出身の参加者: 7名

<協力団体(敬称略)>

助成金・寄付: 東華教育文化交流財団、三菱UFJ国際財団、MRAハウス

その他活動協力: Li Po Chun United World College of Hong Kong

Ⅱ. はじめに

日中青年会議は日本、中国、香港から選考過程を経て選ばれた中高生を招待し、香港を会場とし1週間に渡って歴史、外交、文化その他様々な議題について話し合い、異文化理解や相互理解・尊重を深めることを目的とした会議です。2023年度の第15回日中青年会議は、日本・中国本土・香港・台湾より総勢40名の中高生の参加者と26名のオーガナイザーが集い、7日間に渡り対面で開催されました。

日中青年会議の目的は、日中文化への理解、互いの知識、価値観の尊重及びそれに対する批判的思考力、平和の本質と対話の重要性の理解、等を目指して作られたプログラムを通して、相互尊重の上に成り立つ建設的な未来を創造できる日中の親善大使を育成することにあります。2009年に始まり、今年度で15回目を迎える本会議が、皆様のご支援とご協力のおかげで無事終了しましたこと、大変感謝しております。実行委員一同、今年度の会議の様子をお伝えするため、本報告書を作成させていただきました。

<会議理念>

国際理解を通して、相互尊重の上に成り立つ建設的な未来を創造できる日中の親善大使を育成する。

<特徴>

会議企画・運営が高校生主体で行われており、その大半が異文化理解を通じて平和な世界を構築することを目指して設立されたユナイテッド・ワールド・カレッジ(以下UWC)の在校生や卒業生、もしくは過去の会議参加者で占められています。また、会議運営委員の国籍やバックグラウンド、国際経験は多岐にわたります。私たち一人一人がそれぞれの人生経験を生かして、多角的な視点を持った会議運営に貢献しています。

<成り立ち>

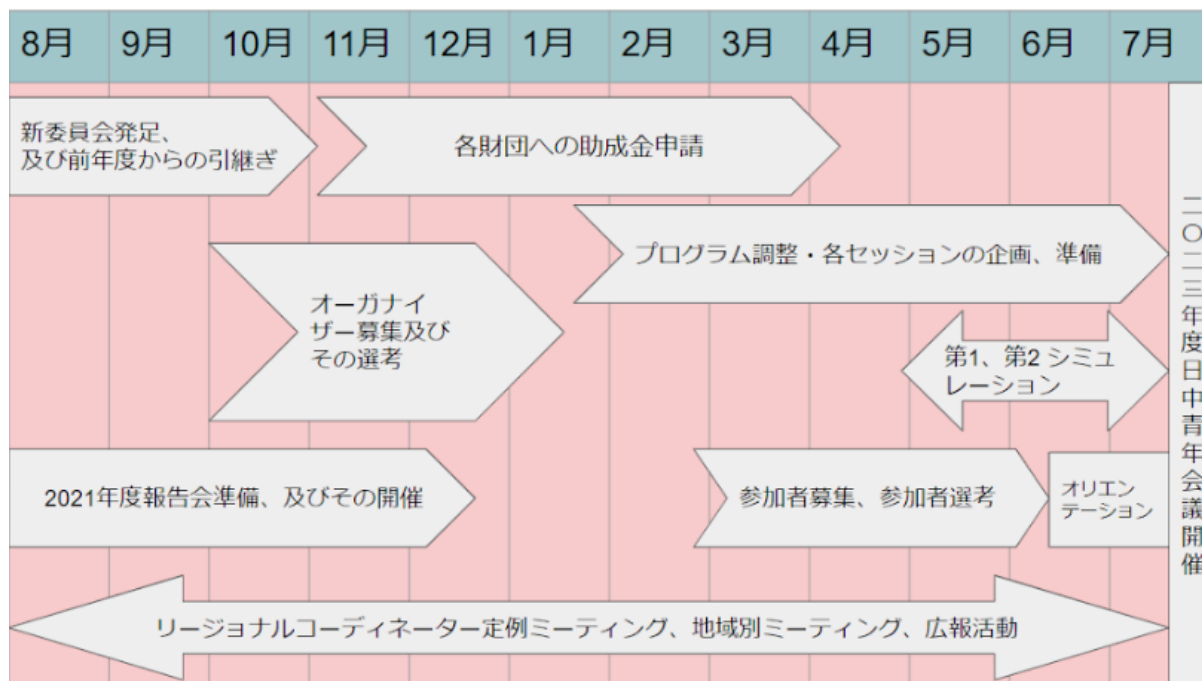
日中青年会議は、2009年に、当時 UWC 香港校 (LPC) の学生であった古川知志雄ら UWC 生が設立したプログラムです。中国本土と日本の両国から文化的影響を強く受けている香港に立地する香港校では、中国人と日本人の高校生が寝食をともにしながら、お互いの問題について話し合う機会が多くあります。また、学校全体としての日中問題に対する関心も高く、例年日中関係の問題に関するGlobal Issue Forum (地球規模的な問題フォーラム) が開催されています。かつて政冷経熱と言われた日中間の信頼基盤の弱さを克服するというゴールを共有した高校生有志によって、本会議は始まりました。

<目的>

1. 若者の、日中関係とそれぞれの文化に対する理解を促す。

2. 自分達の持つ「知識」がどこから来ているのかを分析することによって、批判的思考の大切さを参加者に伝える。
3. 異なる意見を持つ同年代の仲間と議論をする機会を提供することによって柔軟な思考の大切さを参加者に理解してもらう。
4. 建設的な未来を作るにあたって、対話の重要性を考える場を提供する。
5. 自主的な奉仕活動に協力して取り組むことにより、日本・中国本土・香港・台湾それぞれの社会に貢献できる能力を身につける。
6. 日中の親善大使にユナイテッド・ワールド・カレッジの国際色豊かな校風を体験する機会を提供する。

Ⅲ. 会議運営・計画



2023年度日中青年会議は上記のスケジュールで運営されました。新型コロナウイルスが収束し、4年ぶりの対面会議開催となりました。2022年度会議終了後、8月に2023年度日中青年会議運営委員が発足され、日本・中国本土・香港・台湾の4チームによる約1年間の企画・準備期間を経て会議が開催されることとなりました。

<参加者選考>

今年度は、5月に期限を設け参加者選考を実施いたしました。1次書類審査と2次面接審査の2段階選考を実施したことにより、言語能力や思考能力だけでなく、応募者の人柄や会議に対する熱意等、多方面から適正を測り参加者を選抜いたしました。

<参加者オリエンテーション>

今年度はオンラインによるオリエンテーションを7月に行いました。運営委員が会議中に起こりうる問題を実演し、その対処について参加者にディスカッションをさせることで、本番でも臨機応変に参加者たちが対応をできるよう準備をしました。

<今年度スローガン>

“Peace cannot be kept by force, it can only be achieved by understanding.”
 ~ Albert Einstein.

「平和は力によっては保たれない。平和はただ理解し合うことによるのみ、達成できるのだ」

アルバート・アインシュタイン

<シミュレーション>

対面開催の準備をする上で、セッションの内容とロジスティクスの二方面からゆかりなく準備をするために、オンラインシミュレーションと対面シミュレーションを行いました。

1st シミュレーション(オンライン)

Please sign up in Sheet 2				
You MUST attend your own session's simulation				
(GMT+8)	1st, July	2nd, July		
09:00-10:00	HK OC Night Talk	TW OC Night Talk		
10:00-11:00	JPN OC Night Talk	PRC OC Night Talk		
11:00-11:30	Immersive Activity	Buddy Group Competition		
11:30-12:30	Conflict Management	Media Literacy		
13:00-15:00	Cultural Session	History Session		
15:00-15:30	Out-of-Campus	Final Event		
15:30-16:00		Education Forum		

We will **NOT be simulating the engaging part** of your session, but detailed explanation of what are the activities about is required

2nd シミュレーション(対面)

Date/Time	25th, July	26th, July	27th, July	28th, July (Day 1)
07:00-08:00				
08:00-09:00	Organizers Arrival	Breakfast (Student Kitchen)	Breakfast (Student Kitchen)	Staffed - Canteen
09:00-10:00		Cultural Session (104)	History Session (104)	Education Forum + Final Event (104)
10:00-11:00		TW OC Night Talk (104 + Amphitheatre)	Opening/Closing Ceremony (Assembly Hall)	Final run-down (104)
11:00-12:00			Lunch (Off-campus)	Staffed - Canteen
12:00-13:00			Out-of-Campus Day Out prep	Get ready
13:00-14:00		Media Literacy (104)		
14:00-15:00		HK OC Night Talk (104 + Amphitheatre)		
15:00-16:00		JPN OC Night Talk (104 + Amphitheatre)		
16:00-17:00		PRC OC Night Talk (104 + Amphitheatre)		Participant Arrival PRC OCs go to PRC and come back
17:00-18:00				
18:00-19:00	Dinner (Student Kitchen)	Dinner (Student Kitchen)	Dinner (Off-campus)	Staffed - Canteen
19:00-20:00	OC Briefing	Buddy Group Competition (Sports Hall)	Out-of-Campus Day Out prep	Opening Ceremony (Assembly Hall)
20:00-21:00	Dragon/Lion Dance (Sports Hall)	Immersive Activity 1 & 2 (104/Student Kitchen)	Conflict Management (104)	Buddy Group time (Peace Centre + 104)
21:00-22:00	Buddy Group time/Regional Meeting /Reflection/Peace commemoration (Peace Centre + 104)	Session revise and prep	performance practice	
22:00				
23:00				

IV. プログラム内容

2023年度の会議は3年ぶりの対面開催となり、数々のセッションを通して参加者が日中関係に関する知識や批判的思考を学べる大変密度の濃いプログラムとなりました。日本・中国本土・香港・台湾の4地域からの計40名の参加者は、会議前半には文化セッションやイマーシブアクティビティを通じて異文化交流をし、お互いについての理解を深めました。そしてメディアリテラシーセッションやコンフリクトマネジメントのセッションでは、偏見が私たちの日常でどのように起こるのかを認識し、日中問題を解決するのに必要なスキルを磨きました。さらに、歴史セッションでは、双方の歴史理解の食い違いとその影響を認識し、日中関係の将来を担うにあたって要される政治的なアプローチの方法を学びました。チームごとに協力して行う香港探索では話し合いを通じ、チームワークを学び、参加者同士の絆が深まりました。そしてそれまでのセッションを通じて学んだ知識やスキルを活かして外交シミュレーションであるファイナルイベントで、政府の立場からどのようにして二国間の平和を築くことができるかを考えました。会議期間中には、每晚各地域に焦点を当てたナイトトークや、参加者同士の自由交流会、バディグループでの交流などを通して参加者は他地域に親しみをもちました。セッションは英語で行われ、議論の展開も早いため、多くの参加者にとっては難易度の高いプログラムとなっておりますが、参加者は積極的に他地域の参加者と交流を図り、国境を超えたオンラインでの相互理解をし、各自日中関係の未来への使命感を胸に会議を終えました。

Date/Time	28th, July (Day 1)	29th, July (Day 2)	30th, July (Day 3)	31st, July (Day 4)	1st, August (Day 5)	2nd, August (Day 6)	3rd, August (Day 7)
07:00-08:00				Wake Up + Prepare for the day			
08:00-09:00		Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast
09:00-10:00		Cultural Session (104)	Conflict Management (104)	History Session (104)	Media Literacy (104)	Day Out 2 Activity 1	Final Event (104)
10:00-11:00							
11:00-12:00		Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch
12:00-13:00							
13:00-14:00		Immersive Activity 1 (104)		Education Forum (104)	Regional Meeting (103, 104, 212/213, 314/315)		Reflection + Closing Ceremony (Assembly Hall)
14:00-15:00					Buddy Group time (Peace Centre + 104)		
15:00-16:00		Final Event Introduction (104)	Buddy Group Competition (Campus)	Immersive Activity - 2: Intro (104)		Day Out 2 Activity 2	
16:00-17:00	Participant Arrival	Buddy Group time (Peace Centre + 104)		Final Event prep (104)	Immersive Activity - 2 (Student Kitchen, 104)		
17:00-18:00		Regional Meeting (103, 104, 212/213, 314/315)		Regional Meeting (103, 104, 212/213, 314/315)			
18:00-19:00	Dinner	Dinner	Dinner	Dinner	Immersive Activity	Dinner	
19:00-20:00	Opening Ceremony (Assembly Hall)	Dragon/Lion Dance (Sports Hall)	Taiwan Night Talk (104)	Dragon/Lion Dance (Sports Hall)	PRC Night Talk (104)	Peace Commemoration (Courtyard-AV)	
20:00-21:00	Buddy Group time (Peace Centre + 104)		Japan Night Talk (104)		Hong Kong Night Talk (104)		
21:00-22:00				Free Time			
22:00				Curfew			
23:00				Light-out			
Activity types	Engaging activity	Buddy Group	Meeting	Out of campus	Sessions	Meals	

<特徴>

- セッション外の交流の場

会議中は4つの地域から来た参加者がルームメイト同士となり、寝食を共にします。そのため自然と地域を超えての交流が深まり、日常的な場面からお互いの文化の相違点に気づく事ができます。

- バディグループ

異なる国・地域からの参加者とオーガナイザーの計10名程度で組織される「バディグループ」は会議における家族のような役割を果たします。会議中は毎日バディグループ単位での振り返りセッションを行い、参加者はその日学んだことや疑問に思ったことをグループ内で共有しました。他にも、ファイナルイベントなど、主体的に考えたりアウトプットしたりするセッションの準備を行いました。



- 参加者主導で取り組むセッション

日中青年会議は、会議を対話の場として捉え、オーガナイザーはあくまでも参加者をサポートする立場だと考えています。そのため多くのセッションは参加者自身が考え、自身の意思で行動することを要求します。特にファイナルイベントにおいては、参加者主導で準備、ディスカッション、発表が行われました。限られた時間の中でしっかり考え、議論して結論を見出すことは簡単ではありませんが、このプロセスを通じて成長することができたという参加者が多くいました。

- 地域別ミーティング

会議中には地域別ミーティングも行われ、母国語で会議の振り返りを行います。日本チームでは、日本人としてのアイデンティティや歴史を考える上での価値観についてなどを中心に振り返りや共有を行いました。参加者からも話し合いたいトピックの提案などが多くなされ、主体的な話し合いの場となりました。閉会式では地域別パフォーマンス一環として、ソーラン節や恋ダンス、可愛くてごめんのダンスを披露しました。また、オーガナイザーとしても毎回の地域別ミーティングを通じて参加者の成長を見ることができました。



<開会式>

参加者が集合した初日の夜に開会式が行われました。開会式は、参加者の会議全体に対するモチベーションと興奮を高めるとともに、会議のテーマや目的を再確認する催しとなりました。

<文化セッション>

文化セッションは、日本・中国本土・香港・台湾の4つの地域の文化についてよりよく知り、お互いの異なる価値観を理解、共有するという目的で行われました。それぞれの地域には、異なる独特の文化が存在します。それによって生じる異なる考え方についてディスカッションを通して触れ、異なる着眼点から物事を考えるスキルを学ぶという目的のもと、本年度の文化セッションは、各地域の食や劇や祭礼、ステレオタイプを中心に展開されました。

<コンフリクトマネジメントセッション>

コンフリクトマネジメントセッションは相互理解を主体として、対立の根源を学ぶことで問題解決能力を養うことを目的としたセッションです。

本セッションでは日常で起きる可能性のある小さな問題を取り上げて、問題内のステークホルダーの役を演じることで問題解決の過程を再現しました。この過程を通し相手に自分の価値を押し付けるのではなく、相手の価値を先に理解することで問題の落としどころを作り、ステークホルダー全員が納得できる答えを導きました。その他にも、過去の歴史的事件を例にとりコンフリクトダイナミクスモデルに当てはめることで、対立の鎮火方法を学ぶことが出来ました。コンフリクトマネジメントは日常生活でも大切なスキルでもあり、あえて自分とは違う立場から物事を考えることで、多種多様な考え方が存在すると言う事を理解し有意義なセッションとなりました。

<メディアリテラシーセッション>

メディアリテラシーセッションではフェイクニュースやミスインフォメーションについて学び、身近な例を通じてそれぞれへの理解を深めました。また、現代社会において見過ごせないAIの特性や問題点についてディスカッションを行い、参加者はより実生活に基づいた学びを得ました。そこから、現実社会で、なるべく質の高い正確な情報を得るには何ができるかについて考えを深めました。セッションの後半では、ソーシャルメディアのアルゴリズムによる、身近に潜む分極化の可能性について学び、どのようにして両極化の影響を軽減できるかについて考え、共有しました。



<歴史セッション>

歴史セッションでは、異なる視点・共通の歴史をテーマとして、ディスカッションベースのアクティビティを2つのパートに分けて行いました。初めに各地域で発刊された歴史の教科用図書を対比させ、歴史という教科がどのように偏りを持って教えられているのかをグループごとに比較し教育の時点での同じ歴史に対する偏見や視点を認識しました。後半では、グループに分かれ、いくつかの歴史的な出来事について、個人個人の意見を共有し合いながらディスカッションを行いました。参加者は、様々な視点から歴史を学ぶことによって、問題の複雑さを理解すると共に、相互理解を深めるには何ができるのかを考えました。

<OCナイトトーク>

OCナイトトークは、参加者に日本・中国本土・香港・台湾の文化についてカジュアルに学んでいただくという目的の元、各地域のオーガナイザーがそれぞれで決めた話題について、1時間のプ

レゼンテーションを行うというものです。日本チームは日本の文化で世界的にも広く知られているアニメについて、中国本土チームは中国各地の郷土料理について、香港チームは香港の映画産業について、台湾チームは台湾の移民について発表しました。各チームともに、試食会や動画作りなどインタラクティブなアクティビティを織り交ぜながら、各地域の文化を深掘りして紹介しました。参加者は、楽しみながら他地域について理解を深めました。

<イマーシブアクティビティ>

本会議では2つのイマーシブアクティビティを行いました。初めのセッションでは、それぞれの服に込める意味を考えながら、古着を用いてコーディネートを作り、ファッションショーを行いました。参加者はエンターテインメントを通じて楽しみながら、服装に込められた文化的価値を学びました。2つ目のセッションでは、食の裏に潜む文化を考えながら、それぞれのバディグループが一つの料理を作り、最後には作られた料理を共有して夕食を楽しみました。議論中心のセッションが多い中、参加者が楽しみながら交流する場を提供することができました。



<ライオン・ドラゴンダンス>

香港の文化共有の一環として、参加者はドラゴンダンスとライオンダンスを経験しました。多くの参加者にとって初めての体験となり、香港の文化について理解を深めることができました。希望者は閉会式でのパフォーマンス披露に向けて、短い時間の中で一生懸命練習し、本番でその成果を発揮しました。



<香港探索>

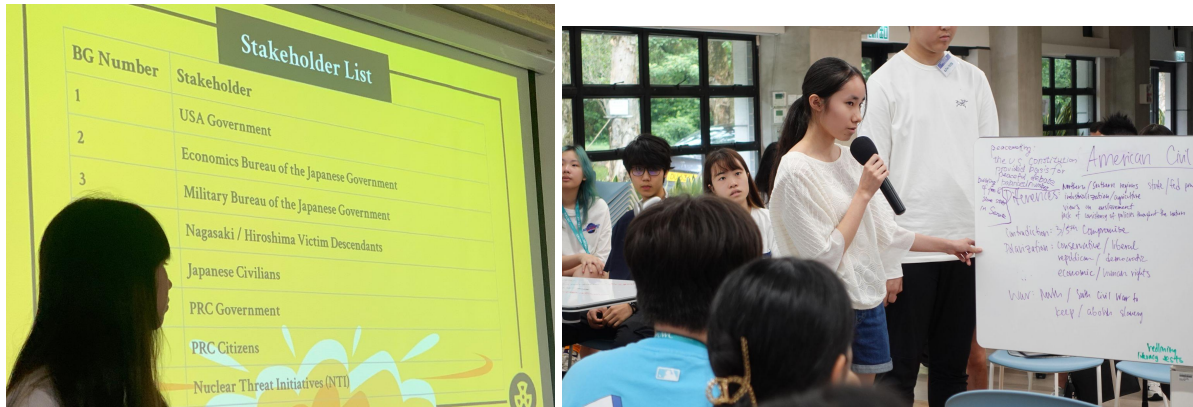
日中青年会議の目玉ともいえる香港探索では参加者が小グループに分かれ、一日かけて香港のローカルマーケットやビクトリアハーバーなどの香港中の名所を巡りました。また食事では、豆乳を使ったデザートや米麺などのローカルフードを楽しみました。



<ファイナルイベント>

ファイナルイベントでは、これまでの会議の総括として、日本の核兵器の保持について議論を行い、コンセンサスを目指しました。参加者は、日本や日中政府や被害者の子孫など8つのロールに分かれ、日本政府が核兵器を保持するべきか否かについて交渉をしました。さらに交渉の進行中には、北朝鮮からのミサイルの九州地域への落下という予想外のハプニングを入れること

で、より現実的な交渉になり、会場はとても盛り上がりました。バディーグループ内で行われたファイナルイベントの準備では、各々のスタンスについてリサーチを行い、得られた資料を元に自らの立場を形成しました。コンフリクトマネジメントセッションで培った交渉力や問題解決能力を生かし、自身の利害関係だけではなく、相手の視点から物事を理解しようとする姿勢が参加者の多くに見られました。



<閉会式>

閉会式は会議の締めとして、最終日に最後のバディグループボンディングにて行われたリフレクションの後に行われました。再び各地域の地域ディレクターによるスピーチから始まり、4地域それぞれが事前に準備した地域パフォーマンスを披露しました。更に、参加者全員の修了証書授与式が行われ、培った経験や友人を振り返りつつ、本会議は幕を閉じました。



<アンケート>

会議最終日に行われたアンケートでは、参加者に会議の総合的な評価をしていただきました。各セッションに関する評価や、全体への感想を頂き、参加者目線からの指摘や次年度の会議に向けた改善点を得ることができました。

V. 日本チーム収支報告

<収入>

項目	金額(円)	備考
自己資金	130010	昨年度会議からの繰越金
参加費用	650000	50000円×13名
参加者食費	208000	16000円×13名
MRAハウス	100000	
東華教育文化交流財団	150000	
三菱UFJ国際財団	400000	
計	1638010	

<支出>

内訳	金額(円)	備考
滞在費	532475	参加者と日本チームのLPCでの滞在費
交通費	736857	日本チームの国内交通費、渡航費
wifiレンタル費	31150	緊急連絡のwifiレンタル費
印刷費	1408	本会議・デイキャンプ・広報・資料等の印刷費
通信費	8422	レターパック・切手・zoom購入費等
計	1310312	差額は来年度の予算として繰り越す

VI. 最後に

皆様のご支援とご協力を賜りまして、3年ぶりに対面宿泊型として開催できることになった2023年度日中青年会議を無事に終了することができました。1週間という限られた時間の中で、できるだけ多くの物事を吸収しようと難易度の高いセッションにも果敢に挑戦し、異なるバックグラウンドと価値観を持つ仲間との絆を深める参加者の姿を目にして、この会議の意義を改め実感致しました。学生主体で運営される会議ということもあり、例年会議に必要な人材、資金、場所を確保することが運営委員の直面する大きな挑戦です。その中、第15回会議を迎え、また成功のうちに会議を終了できたのも、ご支援、ご協力くださる皆様のお陰です。

次年度以降もより安全で高い水準の会議を提供できるよう、さらなるプログラムの向上を目指して委員会一同全力を尽くして準備してまいります。

改めまして、長きに渡りご支援、ご協力下さりました皆様にこの場を借りまして深く御礼申し上げます。今後とも日中青年会議を何卒宜しくお願い申し上げます。

2023年度日中青年会議委員会一同